



「気づき、考え、行動」ができる児童に

I. 後期のめあては「考えて行動」

本校の児童は教えられたことを素直に聞き、その通りに行動することができる良さを持っています。しかし、今後変化し続ける世の中を生きていく上では、自分で判断し行動できる力が必要になってきます。多様な人々と共に生活していく上では、他人の思いや立場に配慮して行動しようとする心も育つ必要があります。本校の校訓は「気づき 考え 行動」です。そこで、後期の生徒指導のめあてを「考えて行動できる児童の育成」としています。このめあてを全職員が意識して全児童に声をかけ励ましています。また、できている場面を探してほめるようにしています。後期の前半が終わりに近づき、子ども達がずいぶん意識できるようになってきました。ご家庭でも同様な取組をお願いします。

II. 「みりの里まつり」を開催

今年は昨年再開した餅つきに加えて、PTA会長からの申し出で、たくさんの保護者の皆様によって作られた豚汁が児童にふるまわれました。いまだ無くなっていないコロナの感染を懸念して、児童と来場者合同の会食は控え、いつも給食を一緒に食べている教室で学年ごとに餅と豚汁をおいしく食べました。体育館では「感謝の気持ちを伝える会」を行い、登下校の見守りや読み聞かせ、もち米づくりのお世話をしてくださっている方々などをお招きして、子ども達から感謝の気持ちを伝えました。

地域の方々へのもち米販売では、販売できる量が少なくてすぐに売り切れになってしまい買えなかった皆様には申し訳ありませんでした。次年度の販売方法は学校運営協議会で検討してまいります。



III. さまざまな体験

後期前半もたくさんの体験をすることができました。皆様のご協力に感謝いたします。



親睦陸上記録会

合同体験学習

駅清掃ボランティア

コスモス音楽祭



稲刈り

いも掘り

バレエ鑑賞

いきなり団子作り

この他についてはホームページ内の「学校生活」のコーナーで紹介しています。右上のQRコードからご覧ください。